

基礎データ	人口	6,797万人(2022年)	日本との関係	日系企業数	794社(2022年)
	名目GDP	2兆7,791億米ドル(2022年)		在留邦人数	36,204人(2023年)
	1人当たりGDP	40,886米ドル(2022年)		日本食レストラン数	4,680店(2023年)
	名目GDP成長率	2.5%(2022年)			

1

市場の特性と消費の動向

フランス産米は減産傾向、EU域外からのコメ輸入が増加

A 市場の特性

フランスでは、コメとしては長粒種が一般的です。コメの輸入先国としてはイタリア、カンボジア、タイ、パキスタンなどで、これらは一般のスーパーで幅広く販売されています。一方で、中・短粒種は主にアジア系スーパーや有機食料品店、そして一部の現地系スーパーでも取り扱われており、主に寿司米として販売されています。

近年では、都心部の現地系スーパーでも商品の多様化がみられ、プライベートブランドやオーガニックブランドなどが増えています。

包装米飯はアジア系スーパーで販売され、アジア系のトラットリア(惣菜屋)のほか、一部の現地系スーパー(特にパリ中心部)でもサンドイッチなどと一緒に販売されています。

B 消費の動向

長粒種が一般的で、フランス料理では主にインディカ米やバスマティ米が使用されます。これらの長粒種は粘り気がなく、ぱらっとしていて、メイン料理のソースとよく合います。特に、バスマティ米は独特の香りがあり、人気があります。

短粒種でも、日本産米は特に粘り気があり、欧州産の短粒種は形状は同じですが水分量や粘り気が少ないという特徴があります。

欧州産の短粒種は、イタリア料理のリゾットやスペイン料理のパエリアにも使われます。現地の有名なデザートであるリオレ(Riz au lait)にも短粒種が使われています。

パリを中心に日本食レストランが多く、日本食材を扱う本格的なレストランもあります。日本産米は味や品質が良いとの意見がある一方で、価格が高いため、日系を含むアジア系が主な購入者となっています。

表-1 コメの生産・消費・輸出入の状況

暦年	2021	2022	2023
生産量(千トン)	64	66	68
消費量(千トン)	607	671	635
輸出量(千トン)	47	55	31
輸入量(千トン)	590	660	598

(出典)EUROSTAT及びITC(消費量=生産量+輸入量-輸出量) 2024年1月時点

表-2 日本からのコメの輸出状況

暦年	2021	2022	2023
輸出量(トン)	173	237	395
輸出単価(円/kg)	416	391	341

表-3 日本からの米菓の輸出状況

暦年	2021	2022	2023
輸出量(トン)	12	14	13
輸出単価(円/kg)	1,366	1,433	1,577

表-4 日本からの包装米飯等の輸出状況

暦年	2021	2022	2023
輸出量(トン)	7	10	7
輸出単価(円/kg)	403	240	665

表-5 日本からの米粉の輸出状況

暦年	2021	2022	2023
輸出量(トン)	0	1	0
輸出単価(円/kg)	0	4,899	0

(出典)財務省「貿易統計」(政府による食糧援助を除く) 2024年1月30日時点

コメの主な輸入先国・地域

イタリア、カンボジア、タイ、パキスタン、オランダ、ミャンマー、ベルギー、スペイン、ウルグアイ、ガイアナ、ベトナム、インド

2

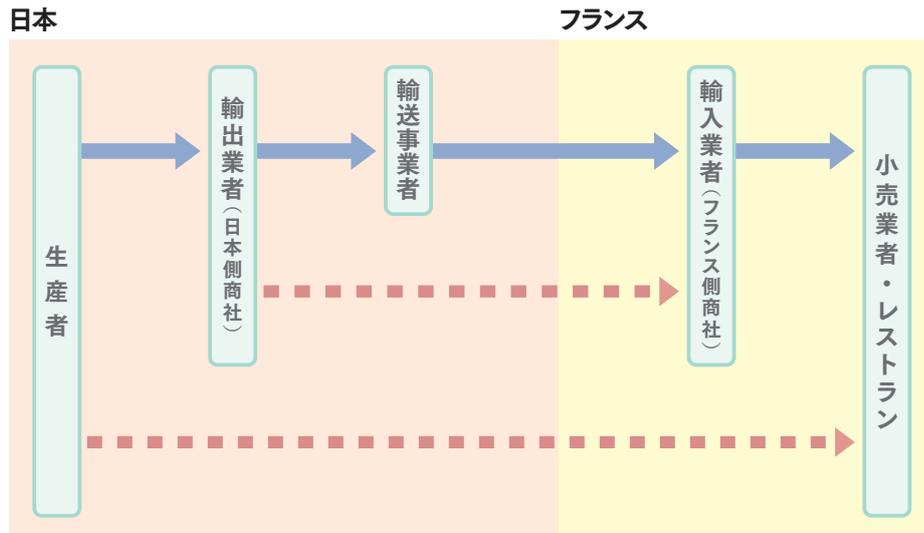
流通チャネルと取引慣行

小売は国内の輸入卸を通じて輸入商品を仕入

A 日本産米の流通経路

フランスで日本産食品を扱う輸入業者は複数存在し、多くはフランス国内における流通機能を持っており、輸入卸として機能しています。大手小売業者は主に国内の輸入卸業者を介して輸入商品を仕入れますが、一部の小売店やレストランで生産者・メーカーとの直接取引により商品を仕入れるケースも存在します。

なお、インタビューによれば、各段階でのマージンは約20～30%程度と見られます。



(出典)現地での聞き取りなど

B 取引慣行

フランスの消費者は価格に非常に敏感です。そのため、商品をマスマーケットで販売するには価格競争力が不可欠です。また、輸入業者は賞味期限の短さを課題として挙げており、特に海上輸送の場合、約1～3か月の輸送期間を要するため、1年以上の賞味期限が求められます。

3

関税割当枠と関税

EUの関税体系を適用

■ 関税割当枠

玄米または精米を1トンを超えて輸入する輸入事業者は、事前に輸入ライセンスを取得する必要があります。また、輸入関税がゼロもしくは減額される輸入割当枠がありますが、この割当枠を利用する場合は、輸入する重量にかかわらず、輸入割当ライセンスの取得が必要です。フランスの場合は、EUではなく仏農業省関連機関から輸入ライセンスを取得する必要があります。最初の申請の場合には輸入業者が3か月以内に入手したK-bisのオリジナル(登記情報)、銀行情報(RIB)、社名入りレターヘッドなども必要となります。

精米は、米国、タイ、オーストラリア以外の全ての国の合計で年間1,805トンの輸入関税割当が設けられ、関税率がゼロに設定されています。また、玄米については、従価税が15%とされており、うち、すべての国の合計で年間1,634トンの輸入関税割当が設けられています。なお、日本産玄米の場合、通常は価格単価が高いため、関税割当を用いた場合の関税率よりも通常の関税率の方が低くなる場合があります。

関税

EUは域外共通関税制度の下で、域外からの輸入品の関税率は域内各国で一律となっています。

なお、2019年2月に発効した日EU経済連携協定(EPA)において、コメは関税削減・撤廃の対象外ですが、米菓については関税が即時撤廃されました。

玄米(HSコード1006.20.92)	42.5ユーロ/トン
精米(HSコード1006.30.42)	175ユーロ/トン
包装米飯(HSコード1904.90.10)	8.3% + 46ユーロ/100キロ
米菓(HSコード1905.90)	含有成分により異なる(日EU・EPAにより無税)
米粉(HSコード1102.90.50)	138ユーロ/トン

4

検疫制度と食品規制

EU規則に基づき規制

A 検疫制度

日本からEUにコメ、米菓及び包装米飯を輸出する場合、特別な検疫上の措置は求められません。植物検疫証明書の取得も不要です。ただし、栽培用のコメについては植物検疫証明書が必要となります。

B 食品規制

製品表示の内容

当該製品の販売国における公用語の使用が必須です。EU公用語であれば複数の記載が可能です。

- a. 食品名
- b. 原材料リスト(米菓及び包装米飯の場合。食品添加物については『用途+化学物質名またはEナンバー』で示す必要)
- c. アレルギー誘発物質(❖1)
- d. 特定成分の分量や使用割合(❖2)
- e. 正味量
- f. 賞味期限・消費期限
- g. 特別な保管条件や使用条件(ある場合)
- h. 輸入業者の名称・住所
- i. 原産国(❖3)
- j. 使用方法(説明が必要な場合)
- k. 実際のアルコール度数(飲料で1.2%以上の場合)
- l. 栄養表示(❖4 米菓及び包装米飯の場合)
- m. 製造ロット番号

-
- ❖1…グルテンを含む穀物、甲殻類、卵、魚、ピーナッツ、大豆、乳(ラクトース含む)、ナッツ類、セロリ、辛子、ゴマ、10mg/(Lあるいはkg)の二酸化硫黄または亜硫酸塩、ルピナス、軟体動物を含む場合。原材料リストの強調表示により表記可能。
 - ❖2…商品名に含まれる原材料(Rice CrackerのRiceなど)やラベル表示で強調されている原材料が該当する。
 - ❖3…最終製品の原産地と主原料の原産地が異なる場合に表示する必要。
 - ❖4…エネルギー(kcalとKJの両方)、脂肪、飽和脂肪酸、炭水化物、糖類、タンパク質、塩分について100gあるいは100ml当たりで表記。

■ 重金属・汚染物質

欧州委員会規則 (EC) 1881/2006により食品カテゴリーごとに汚染物質の上限値が規定されています。コメではアフラトキシン、オクサトキシンA、カドミウム、メラミン、無機ヒ素の残留濃度の上限値が規定されています。

■ 残留農薬基準

ポジティブリスト制となっており、欧州議会・理事会規則 (EC) No 396/2005によって食品の種類ごとに規定されています。全ての食品に対する残留農薬基準値は、「EU農薬データベース (EU Pesticides database)」で検索が可能です。

■ 東京電力福島第一原子力発電所事故に関連した輸入規制

2023年7月13日、東京電力福島第一原子力発電所事故に伴う日本産食品の輸入規制は撤廃されました。

5 小売店の店頭価格

日本産米はEU産米とほぼ同じ価格帯で販売

A コメの販売価格

フランスでは、同じEU域内のイタリア産やスペイン産のコメが主に販売されています。価格面では、日本産はやや高い程度で、ほぼ同等程度です。

表-6 コメの販売価格(調査月:2023年7月)

商品名	原産国 (産地)	販売 単位	価格 (ユーロ)	販売単位での 円換算*
みのり米	スペイン	1kg	5.2	827
Riz Sushi Japonica	フランス	450g	3.0	477
ゆめにしき	イタリア	1kg	6.9	1,097
秋田県産あきたこまち	日本	2kg	17.3	2,751
新潟県産こしいぶき	日本	1kg	6.7	1,065
有機JASササニシキ	日本	800g	9.1	1,447

B 包装米飯の販売価格

フランスでは、日本産の他に、韓国産や米国産なども販売されており、価格面では韓国産がやや安い傾向にあります。

表-7 包装米飯の販売価格(調査月:2023年8月)

商品名	原産国 (産地)	販売 単位	価格 (ユーロ)	販売単位での 円換算*
Rice Medley	米国	220g	3.2	509
Cooked white rice	韓国	210g	2.3	366
CJ Cooked white rice	韓国	275g	2.1	334
さとうのごはん	日本	200g	4.0	636
おいしいごはん	日本	180gx3	7.5	1,193

C 米菓の販売価格

米菓については、日本産や台湾産、タイ産等が出回っています。台湾産は日本産よりも全体的に価格が抑えられています。

表-8 米菓の販売価格(調査月:2023年7月)

商品名	原産国 (産地)	販売 単位	価格 (ユーロ)	販売単位での 円換算*
Want Want Shelly Senbei	台湾	150g	2.3	366
Crackers de riz	タイ	150g	2.2	350
三幸のサラダせん	日本	115g	2.4	382
ソフトサラダ	日本	20枚	3.8	604
丸大豆せんべい	日本	10枚	4.2	668

*1ユーロ=159円換算
(出典)財務省「貿易統計」(政府による食糧援助を除く)

6 インターネット販売の実態

インターネット販売市場はコロナ禍前の水準に回復、発展を続ける

Fevad(電子商取引及び遠隔販売連盟)は、2023年2月にオンライン販売に関する年次報告書を発表しました。オンライン販売は依然として好調で、2022年において、売上高は1,469億ユーロとなり、2021年と比較して13.8%増加しました。

Fevadは、「2022年の売上高はパンデミック前の水準を19%上回っている」と強調し、消費者の購買行動の変化により、フランスにおけるオンライン取引が持続的に成長していることを報告しています。

Fevadの調査によれば、15歳以上の消費者のうち6割がオンラインで食品を購入しており、そのうち42%が大手スーパーのウェブサイトやアプリを利用しています。一方で、オンラインプラットフォームを通じた食品の購入率は28%と報告されています。

日系・韓国系・中国系のスーパーは、実店舗で取り扱っている商品を各自のウェブサイトでネット販売しています。ネット販売のみの日系スーパーや、フランス人経営の日本食材店も存在し、これらの店舗では日本産米も販売されています。

主要ECサイト	a . Amazon	https://www.amazon.fr/
	b . Cdiscount	https://www.cdiscount.com/
	c . E.Leclerc	https://www.e.leclerc
	d . Carrefour	https://www.carrefour.fr/
	e . Lidl	https://www.lidl.fr
	f . Rakuten	https://fr.shopping.rakuten.com/

7 輸出拡大に向けて

フランスにおける日本食の人気は変わらず高く、従来のアジア系食料品店以外にも、フランス人経営の日本食料品店もでき、日本食や食材に触れる機会が増えています。その中で、他国産のジャポニカ米とは違い日本産米の魅力で差別化をすることが重要で、グルメの国と言われるフランスに合ったアプローチを考える必要があります。

また、数年前から米粉を使用した食品としてMochi（大福）やMochi glacé（アイスを餅生地で包んだもの）が人気を博し、定着しつつありますが、多くは台湾産等の米粉が使われています。参入する上では、日本産米粉にすることで何が変わるのかを明確に伝えられるようにすることも必要です。